

女と男の描かれ方

—大衆小説のセックス描写—

佐竹 久仁子

1. はじめに

作家論や作品論といった文学論でとりあげられる小説は、いずれも論ずるにあたいする「一流」小説であろうが、数多く生みだされる小説のほんの一部であり読者層もかざられている。小説のほとんどは真剣に読まれることなく、つぎつぎに読み捨てられる使い捨て商品のようなものである。これらは「大衆小説」「通俗小説」「娯楽小説」などとよばれるが、こちらのほうが読者数は圧倒的に多い。読者はつかの間空想の世界に遊び楽しめばそれでいいわけで、悩ませられたり自分の価値観がおびやかされたりする内容は好まない。したがって、いわゆる大衆小説で描かれる世界は人々の意識に逆らわない、この社会の支配的イデオロギーによったものとなる。

逆にいえば、大衆小説から社会の支配的イデオロギーが読みとれるわけである。本稿では大衆小説における女と男の描かれかたをとりあげる。そこで女と男がどのようにふるまうものとして描かれているかをみれば、性差のステレオタイプがえられるはずである。これらの小説を一読すればその印象から結果は予想できるだろうが、ここではそれを具体的な語句の調査によって確認した。

2. 調査の概要

別掲リストの小説雑誌6誌に掲載されている小説（歴史時代小説を除く現代小説）のセックス描写について調査した^(註1)。この調査では、女あるいは男の動作・行為がどのように叙述されているかに焦点をしばった。具体的には、女あるいは男が動作・行為の主体となっている、以下の動詞および動詞

句を抜きだした。

- ・主節の述部の動詞（句）
- ・つぎの従属節の述部の動詞（句）
連用中止法・～ナガラ・～テ・～ト・～トキ・～ガ・～ケレド・～ノデ
- ・〈女〉あるいは〈男〉にかかる連体修飾節の動詞（句）

なお、人の動作・行為であっても、主格が人の体（の一部）であることが明示されているもの、たとえば「細い身体がほどよくきしみ」「手が肩甲骨の隆起をなぞる」のようなものはとらなかった。すなわち、主格は「〈人〉ガ」にかぎった。

抜きだした動詞（句）はつぎのように分類した。

- ・ a 相手への働きかけを含意しない動作・行為：〈人〉ガ～スル
- ・ b 相手に働きかける性質の動作・行為：
〈人〉ガ〈人（ノ体ノ一部）〉ヲ／ニ～スル
- ・ c 使役形：〈人〉ガ〈人〉ニ／ヲ～サセル
- ・ d 受身形：〈人〉ガ〈人〉ニ～サレル

これらの具体例を以下にあげておく。（ ）は出典で別掲作品リストの符号。

a 〈人〉ガ～スル

a-1 〈女〉ガ～スル

（例）[のぞける] サリナはのけ反り始める。（ネ）

a-2 〈男〉ガ～スル

（例）[仰向けになる] 山根が仰向けになる。（カ）

b 〈人〉ガ〈人（ノ体ノ一部）〉ヲ／ニ～スル

b-1 〈女〉ガ〈男（ノ体ノ一部）〉ヲ／ニ～スル

（例）[迎え入れる] しかたなく、…彼を迎え入れる。（ス）

（例）[おおいかぶさる] 朝美は…曾根に覆いかぶさってきた。（ニ）

（例）[かかえこむ] みさ子は両手で羽賀の頭を抱えこみ、…（ツ）

（例）[しがみつく] 久和子は…多良木の首にしがみついてきた。（ク）

b-2 <男> ガ <女 (ノ体ノ一部)> ヲ / ニ〜スル

(例) [押し倒す] 彼は…砂浜の上に彼女を押し倒した。(オ)

(例) [のしかかる] …テーブルに仰向けになったエリにのしかかって、
… (セ)

(例) [抱きよせる] 伊東は葉子の肩を抱きよせ、… (マ)

(例) [唇をつける] 杉坂は瑛子の耳に唇をつけ、… (コ)

c <人> ガ <人> ニ / ヲ〜サセル

c-1 <女> ガ <男> ニ / ヲ〜サセル

(例) [触れさせる] ためらう男の手をとって、…肌に触れさせる。
(ニ)

(例) [仰向けにさせる] 風見百合絵は、佐々木を…ベッドの上に、
押し倒さんばかりの勢いで仰向けにさせ… (ソ)

c-2 <男> ガ <女> ニ / ヲ〜サセル

(例) [あげさせる] 村井は…美保の顔をあげさせ、… (エ)

(例) [ひざまずかせる] 島田は彼女をベッドに跪かせ、… (チ)

d <人> ガ <人> ニ〜サレル

d-1 <女> ガ <男> ニ〜サレル

(例) [諸肌脱ぎにされる] 逸美は須藤に浴衣を諸肌脱ぎにされ、
… (ア)

d-2 <男> ガ <女> ニ〜サレル

(例) [吸われる] 雅子に応えて口唇を重ねると、舌を吸われた。
(ホ)

なお、つぎのような動詞(句)は細部のちがいは無視して同じもの(矢印の右を代表形とする)としてあつかった。

- ・「脱がす・脱がせる→脱がせる、そらす・そらせる→そらせる」の類
- ・「キスする・キスをする→キスする」の類
- ・「身もだえる・身もだえする→身もだえる」の類

- ・「膝/片膝/両膝を立てる→ひざをたてる、目/両目を閉じる→目を閉じる」の類
- ・「体/上体/胸/背/頭…をそらせる→体をそらせる」の類
- ・裸/全裸/真っ裸になる→裸になる
- ・声/泣き声/うめき声/叫び声…をあげる→声をあげる
- ・吐息/ため息/甘い息/息づかいをもらす→息をもらす

ひとつの作品からとりだすのは異なり語句である。異なり語句が10以上あらわれた作品は、31編（別掲リスト参照）あった。この31編から、延べ956語（句）、異なり516語（句）がえられた。以下では、この31編の調査結果にもとづいて述べる。

3. 調査結果と分析

3-1 女と男の非対称性

a～dにおいて、「〈女〉ガ～」と「〈男〉ガ～」とがどのぐらいあらわれるかをみたのが表1である。

表1. a～dそれぞれの延べ語数、異なり語数

	延 べ	異なり
a 〈人〉ガ～スル	360	184
a-1 〈女〉ガ～スル	283	152
a-2 〈男〉ガ～スル	77	53
b 〈人〉ガ〈人（ノ体ノ一部）〉ヲ/ニ～スル	510	263
b-1 〈女〉ガ〈男（ノ体ノ一部）〉ヲ/ニ～スル	160	98
b-2 〈男〉ガ〈女（ノ体ノ一部）〉ヲ/ニ～スル	350	197
c 〈人〉ガ〈人〉ニ/ヲ～サセル	30	22
c-1 〈女〉ガ〈男〉ニ/ヲ～サセル	4	4
c-2 〈男〉ガ〈女〉ニ/ヲ～サセル	26	19
d 〈人〉ガ〈人〉ニ～サレル	56	47
d-1 〈女〉ガ〈男〉ニ～サレル	48	41
d-2 〈男〉ガ〈女〉ニ～サレル	8	8
a～dの計	956	516

この結果から女と男の描かれかたにかたよりのあることがわかる。

いま、表1からc（使役形）・d（受身形）を除いたa・bの動詞句延べ870例を主格の性別でみると、つぎのようになる。

	a	b	計
〈女〉ガ～	283 (63.9%)	160 (36.1%)	443
〈男〉ガ～	77 (18.0%)	350 (82.0%)	424

動作・行為をあらわす語句は、女が主体のもの（443例）と男が主体のもの（424例）とほぼ同数なのであるが、動作・行為のタイプは異なっていて、女が主体のばあいはa類が多く、男が主体のばあいは逆にb類が圧倒的に多い。すなわち、女の動作・行為は相手への働きかけのないタイプが多く、男では相手に働きかける動作・行為が主となっている。これは、男が女に働きかけ、それにこたえて女が動く、というパタンの描写が多いことを意味する。女は受動的、男は能動的という古典的な性差のステレオタイプの根強さがうかがえる結果である。このことは、また、c使役形では「c-2 〈男〉ガ〈女〉ニ／ヲ～サセル」が多く、d受身形では「d-1 〈女〉ガ〈男〉ニ～サレル」が多いことにもあらわれている。

3-2 〈女〉に特徴的な語句・〈男〉に特徴的な語句

a・bの語句をさらに詳しくみていくと、〈女〉〈男〉それぞれの動作・行為をあらわす特徴的な語句がうかびあがる。まず、a・bの語句をつぎの表2、表3のように意味分類した。

表2. aの語句の意味分類

	a-1 〈女〉ガ～		a-2 〈男〉ガ～	
	延 べ	異なり	延 べ	異なり
① [衣服をぬぐ・裸になる]類 (例) ぬぐ・帯を解く・下着をとる・裸になる・全裸をさらす	17	8	13	3

② [ある姿勢をとる] 類 (例) 横たわる・仰向けになる・ひざまずく・うずくまる・足を開く	40	24	13	11
③ [体の一部の動き] 類 (例) (首・背・胸…を) そらせる・腰を振る・腰をねじる・動く	47	31	21	15
④ [全身の動き] 類 (例) もがく・体をくねらせる・体をふるわせる・体をこわばらせる	31	14	0	0
⑤ [ある表情をする] 類 (例) 目を閉じる・眉を寄せる・顔をゆがめる・頬を染める・涙をこぼす	37	24	1	1
⑥ [声をだす] 類 (例) 声をあげる・声を乱す・叫ぶ・うめく・うなる・あえぐ・わめく	78	31	7	4
⑦ [興奮する・絶頂をむかえる] 類 (例) 興奮する・もだえる・果てる・失神する・達する・放出する	33	20	22	19

表 3. b の語句の意味分類

	b-1 <女>ガ～		b-2 <男>ガ～	
	延 べ	異なり	延 べ	異なり
⑧ [衣服をぬがせる・裸にする] 類 (例) ぬがせる・スカートをめくる・(衣服を) はぎとる・裸にする	1	1	17	12
⑨ [抱く] 類 (例) 抱く・抱きつく・抱きしめる・しがみつく・腕をまきつける	26	10	38	13
⑩ [全身が対象の動き] 類 (例) おおいかぶさる・上に乗る・押し倒す・仰向けにする・からみつく	20	13	48	34
⑪ [体の一部が対象の動き] 類 (例) 手を引き寄せる・足を開く・足を割る・足をすくいあげる	0	0	14	11
⑫ [手・指の動き] 類 (例) さわる・つかむ・まさぐる・なでる・指をつかう・指を動かす	22	14	89	45

⑬ [キスする] 類 (例) キスする・唇をつける・口に含む ・舌をはわせる・吸う・なめる	44	31	84	45
⑭ [見る] 類 (例) 見る・眺める・見つめる・見下ろす ・のぞきこむ・鑑賞する	2	2	23	11
⑮ [相手への反応] 類 (例) 反応する・こたえる・受け入れる ・いやがる・あらがう	25	15	0	0
⑯ [求める] 類 (例) せがむ・求める・訴える・甘える	11	4	0	0
⑰ [せめる] 類 (例) せめる・じらす・なぶる・犯す・ はずかしめる	0	0	10	7
⑱ [ペニスを入れる] 類 (例) 挿入する・つらぬく・埋めこむ・ 押し入れる・中に入る	0	0	23	15
⑲ その他 (例) いくつかしむ・促す・サービスする	9	8	4	4

また、a・bでよく用いられたのは表4のような語句である。

表4. aおよびbにおける度数5以上の語句

〈女〉 ガ～ (延べ 443)	〈男〉 ガ～ (延べ 427)
27例: 声をあげる	13例: 吸う
9例: しがみつく	11例: 抱く
8例: 体をくねらせる	9例: 抱きしめる
7例: 体をそらせる・目を閉じる	8例: つかむ・眺める
6例: 裸になる・あえぐ・口に含む	6例: 脱ぐ・裸になる・舌をはわせる
5例: 足を開く・のけぞる・ 身をよじる・息をもらす・ もだえる・つかむ・こたえる・ せがむ	抱き寄せせる・なでる 5例: 動く・押し倒す・もむ・ おおいかぶさる・まさぐる・ つまむ・愛撫する・キスする・ なめる・口に含む

表2では、男の④〔全身の動き〕類はあられわれず、男には⑤〔ある表情をする〕類や⑥〔声をだす〕類はそれぞれ1例・7例と少ない。女は男とは対照的で、⑥〔声をだす〕類はいちばん多く、⑤〔ある表情をする〕類や④〔全身の動き〕類をつかった描写も詳しい。⑥〔声をだす〕類は、表4にみられるように、「声をあげる(27例)」「あえぐ(6例)」「息をもらす・声を放つ・声をもらす(5例)」と女の動作の特徴語句となっている。

表3では、女に⑩〔ペニスを入れる〕類がないのは当然としても、女が⑪〔せめる〕類や⑫〔体の一部が対象の動き〕類はなく、⑬〔見る〕類は2例、⑭〔衣服をぬがせる・裸にする〕類は1例と非常に少ない。女にあって男にないのは、⑮〔相手への反応〕類と⑯〔求める〕類である。

ここからも、男は女に能動的に働きかけ、女は男の働きかけにたいし、声や表情、全身の動きでさまざまに反応するものとして描かれていることがわかる。この受動的・依存的な女の動きと能動的・支配的な男の動きという対照的な傾向は随所にあられる。⑮〔相手への反応〕と⑯〔求める〕類の主体は女のみ、⑪〔せめる〕と⑫〔体の一部が対象の動き〕類の主体は男のみ、という点はその典型である。

他に差のみられる動作を具体的にあげてみよう。表2の③〔体の一部の動き〕類では、男のばあいもっぱら腰を動かす動作に限られるのにたいし、女では腰を動かす動作のほかに、頭や首をそらせたり、乳房をゆらしたり、シーツをつかんだりといった多彩な動きがみられる。表3の⑩〔全身が対象の動き〕類では、「押し倒す・引き倒す・押さえつける・押さえこむ・組み伏せる」など相手を倒したり抑えつけたりする類の動作をするのは男のみであり(15例)、⑨〔抱く〕類では、「しがみつく・すがりつく・抱きつく」は女のみ動作、「抱き寄せる・抱きとめる・抱きあげる・抱きすくめる」は男のみ動作である。

表3の⑬〔見る〕類の差も特徴的である。女のばあい、⑬〔見る〕類は、「ちらと眺める・顔を下から見上げる」の2例だけである。女は「見る」よりも「目を閉じる」(表4・7例)のである。男のばあいは⑬〔見る〕類は「見る・見おろす・眺める・見つめる・凝視する・眺めを楽しむ・鑑賞する

…」など23例があった。これは、男の行為に反応する女の声・表情や体の動きが細かく描写されることと無縁ではない。そこでは「見る」男にたいし、「見られる」女が描かれているのである。つまり、これらの小説では、セックスという行為の主体は男、女は客体としてとらえられているといえる。男につごうのよい世界が男を中心に展開されているわけである。

3-3 描写の視点

ここでとりあげた作品では、叙述が登場人物中の男の視点からなされているものが多い。相手にたいして「おおいかぶさってくる・まさぐりくる」など「～(テ)クル」形の動作の主体が女であり(〈女〉ガ～18例・〈男〉ガ～0)、「愛撫してやる・吸ってやる」など「～テヤル」形の動作の主体が男である(〈女〉ガ～1例・〈男〉ガ～11例)ことにもそれがあらわれている。

叙述の視点が女のものか男のものかということと、「行為の主体は男、女は客体」ということとらえかたとは本来関係がない。が、「行為の主体は男、女は客体」という男に心地よいとらえかたの描写が男の登場人物の視点からなされるとき、それは男の読者にとっては感情移入しやすいものとなるはずである。一方、それは女の読者には距離を感じさせるだろう。男のかつてなセックス観がおしつけられるのだから。作者たちの念頭には女の読者はなく、男の読者の性的空想をかきたてるために作品づくりをしているのかもしれない。これらの小説雑誌のおもな読者は男であるからだ。もちろん、そのような作品が多いことが女の読者を遠ざけている、ともいえる(注2)。

4 おわりに

今回調査したセックス描写の特徴をまとめると、つぎのような文章になる。

「男は女を押し倒しておおいかぶさる。女は男にしがみついてきて愛撫をせがむ。男は女を抱きしめ、愛撫してやる。女は目を閉じ、体をくねらせてもだえ、せつなげな声をあげる。男は女を眺めて楽しみ、激しく動く。」

「受動的・依存的な女と能動的・支配的な男」「行為の主体は男、女は客

体」といった性差別的な描きかたは、ポルノ小説の特徴のひとつである。その意味で大衆小説の多くは男のために書かれたポルノ小説であるといえる。これらは女と男の性差別的なステレオタイプによりかかって安直につくられ、そしてまた女と男のステレオタイプを再生産しているのである^(注3)。最近の若い世代はあまり小説を読まないということで、これらの小説の影響力は小さいかもしれない。しかし、かわりにまんがや映像が大きな力をもっており、そこでの女と男の描かれかたは大衆小説とまったく同じであり、問題はかわらない。

女と男の性質や行為・役割を固定的にとらえる見方の差別性はこれまでもさまざまな分野で批判されてきた。しかし、その差別性の認識はなかなか一般的なものとならず、性差による人のステレオタイプ化はあいかわらず広くおこなわれている。その例のひとつとしてここでは小説のセックス描写をとりあげた。このような、問題を指摘するだけの作業はあまり生産的ではないかもしれないが、批判の力を高めるためには現状の確認をしておくこともむだではないだろう。

注1 6誌の作品は計110編。そのうち、歴史時代小説・戦記小説・SF小説・伝奇小説類が28編、現代小説は82編。

注2 作者の性によってこの種の小説のセックス描写にちがいがあのかどうかは今回の調査からはわからない。6誌の作品110編のうち作者が女のもものは1割強しかなく(調査対象の31編では3編)、作者の性差との関係を見ることはむずかしい。ただし、とりあげた雑誌の書き手が男にかたよっているということはもちろん指摘できる。

注3 性差別的なステレオタイプはまた、登場人物の言及のしかたにもあらわれている。31編中、女を姓で呼ぶものは1編もない(28編が名、2編が「わたくし・あたし」、1編が「女」)。男は姓で呼んでいるものが19編、「わたし」3編、名で呼ぶものが9割だった。社会でよくみられる、女は名で、男は姓で呼ぶ傾向そのままである。

【調査対象作品リスト】

- ◆『小説現代』1996.9 講談社：(ア)加堂秀三「団子坂下」・(イ)北方謙三「変調」・(ウ)高橋揆一郎「青の日記」・(エ)勝目梓「ファンタジー」・(オ)海老沢泰久「朝の入江」・(カ)安西水丸「Rの夜」・(キ)山口洋子「ムーン・ボウ」
- ◆『問題小説』1996.9 徳間書店：(ク)西村望「泳いできた泥鰌」・(ケ)有賀博之「落としまえ」・(コ)田中雅美「美粧の唇」・(サ)富島健夫「淫心の季節」・(シ)実相寺昭雄「あたしプーしてる」・(ス)栗原知代「溶けそうな夏」
- ◆『小説宝石』1996.9 光文社：(セ)三浦朱門「酒の過ち」・(ソ)南里征典「美人課長の射程」・(タ)大間川清実「抜擢」・(チ)森隆「マニラの赤い月」
- ◆『別冊小説宝石』1996.9 光文社：(ツ)菊村到「肌は死の匂い」・(テ)竹河聖「川の音」・(ト)赤松光夫「愛人僧」・(ナ)小嵐九八郎「夏がゆく」・(ニ)館淳一「靴下留めは赤い色」
- ◆『小説 non』1996.10 祥伝社：(ヌ)山田正紀「青い骨」・(ネ)竹河聖「ひとだま」・(ノ)花村萬月「ちん・ちん・ちん」・(ハ)安部譲二「舎弟」・(ヒ)西村望「足はありますか」・(フ)南里征典「魔淫の棲家」・(ヘ)北沢拓也「秘蔵の旋律」・(ホ)日野祐二「美人OL奪って喰べて」
- ◆『小説推理』1996.10 双葉社：(マ)阿部牧郎「夜の奔流」

【参考】a～dのそれぞれにおける、〈女〉ガ～・〈男〉ガ～の共通語句

○内は用例数

- a 〈人〉ガ～スル(延べ 360 異なり 184) 共通語句21
- ・脱ぐ(女ガ③・男ガ⑥)・裸になる(女ガ⑥・男ガ⑥)・体を起こす(女ガ③・男ガ①)・仰向けになる(女ガ③・男ガ①)・うずくまる(女ガ②・男ガ①)・ひざをつく(女ガ②・男ガ②)・のけぞる(女ガ③・男ガ①)・腰を動かす(女ガ②・男ガ②)・腰を使う(女ガ①・男ガ①)・腰を引く(女

ガ①・男ガ①)・目を閉じる(女ガ⑦・男ガ①)・息をもらす(女ガ⑤・男ガ①)・うめく(女ガ②・男ガ④)・うめきをもらす(女ガ①・男ガ①)・うなる(女ガ①・男ガ①)・果てる(女ガ②・男ガ③)・興奮する(女ガ②・男ガ①)・身もだえる(女ガ③・男ガ①)・のぼりつめる(女ガ②・男ガ①)

b <人>ガ<人(ノ体ノ一部)>ヲノニ〜スル(延べ510 異なり 263)

共通語句32

・脱がせる(女ガ①・男ガ④)・抱く(女ガ③・男ガ⑩)・抱きしめる(女ガ④・男ガ⑨)・おおいかぶさる(女ガ①・男ガ⑤)・押しつける(女ガ③・男ガ①)・胸を合わせる(女ガ①・男ガ①)・またぐ(女ガ②・男ガ①)・乗る(女ガ①・男ガ②)・さわる(女ガ①・男ガ④)・つかむ(女ガ④・男ガ⑧)・もむ(女ガ①・男ガ⑥)・まさぐる(女ガ③・男ガ⑤)・愛撫する(女ガ①・男ガ⑤)・キスする(女ガ①・男ガ⑤)・接吻する(女ガ①・男ガ③)・唇をつける(女ガ①・男ガ③)・唇を押しつける(女ガ②・男ガ①)・舌を使う(女ガ①・男ガ①)・舌を動かす(女ガ①・男ガ②)・舌をはわせる(女ガ②・男ガ⑥)・舌を入れる(女ガ①・男ガ②)・吸う(女ガ③・男ガ⑬)・吸い立てる(女ガ①・男ガ①)・なめる(女ガ②・男ガ⑤)・なめ回す(女ガ①・男ガ②)・なめ上げる(女ガ①・男ガ③)・くわえる(女ガ①・男ガ②)・口に含む(女ガ⑥・男ガ⑤)・かむ(女ガ①・男ガ①)・頬ずりする(女ガ①・男ガ①)・眺める(女ガ①・男ガ⑧)・導く(女ガ②・男ガ①)

c <人>ガ<人>ニノヲ〜サセル(延べ 30 異なり 22) (共通語句1)

・仰向けにさせる(女ガ①・男ガ①)

d <人>ガ<人>ニノヲ〜サレル(延べ 56 異なり 47) (共通語句2)

・脱がされる(女ガ②・男ガ①)・吸われる(女ガ①・男ガ①)